

## 自己評価報告書(最終報告)

報告者

社会系コース／伊藤 直之

### ■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

#### I. 学長の定める重点目標

##### I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが（平成24年8月28日）、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

#### 1. 目標・計画

##### (1) 授業内容

教科教育学(社会科教育)の基礎知識の教授にとどまらず、対立する見解の背景にある理論を認識させたい。

##### (2) 授業方法

大人数の講義では、一方的な講義に陥らずに、1～2の基幹的な問いを示し、思考させ、その返答の多様性や相違を共有する場を設ける。少人数の講義では、実践的な側面を加味して、カリキュラムや授業案のデッサン作成や教材開発の基礎作業などの過度の時間を要しないアクティビティーを取り入れた。

##### (3) 成績評価

期末試験やレポートにおいて、教職生活における文脈を生かしたパフォーマンス課題などを、一部設定することを検討する。

#### 2. 点検・評価

##### (1) 授業内容

社会科教育に関する講義・演習では、基礎知識の教授にとどまらず、対立する見解の背景にある理論を認識させるために、合理的意思決定型授業、合意形成型授業、意思決定批判型授業などの授業の具体を示す資料を提示して、背景にある授業論や教科論の認識をめざした。

##### (2) 授業方法

大人数の講義では、MQを示し、思考させ、その返答の多様性や相違を共有する場を設けた。少人数の講義では、実践的な側面を加味して、マイクロ・ティーチングを行わせるなどのアクティビティーを取り入れた。

##### (3) 成績評価

期末試験やレポートにおいて、教職生活における文脈を生かしたパフォーマンス課題などを設定した。例えば、社会科教材開発演習 I では、世界の諸地域または日本の諸地域の単元構成を逆向き設計論にもとづき、パフォーマンス課題の作成とともに単元編成させる課題を提示した。

## Ⅱ. 分野別

### Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

#### 1. 目標・計画

- ①主免教育実習の取り組みを可能な限り参観し、叱咤激励したい。
- ②卒業論文および修士論文指導において、適確且つきめ細やかなアドバイスを心がける。
- ③硬式野球部顧問として、学生のクラブ活動のさらなる充実のために、支援する。

#### 2. 点検・評価

- ①主免教育実習や副免教育実習において、ゼミ生のみならず、社会系コースの学生の授業を可能な限り参観した。
- ②卒業論文および修士論文指導において、適確且つきめ細やかなアドバイスを心がけ、卒業論文1編、修士論文2編の指導を完了した。
- ③硬式野球部顧問として、インカレの開催に協力した。

### Ⅱ－2. 研究

#### 1. 目標・計画

- ①科学研究費補助金に基づき、イギリスをはじめとする諸外国の社会系教科教育についての調査。
- ②新学習指導要領にもとづく中学校社会科地理的分野の授業開発と提言。
- ③著書および論文業績の積み増しを図る。

#### 2. 点検・評価

- ①科学研究費補助金に基づき、イギリスの社会系教科教育について、11月に調査を実施した。
- ②新学習指導要領にもとづく中学校社会科地理的分野の授業開発と提言として、動態地誌的な学習の具体的展開について、「教育実践フィールド研究」を通して、附属中学校教員とともに意見交換のうえで、推進した。次年度も継続予定である。
- ③著書原稿(分担執筆)1件を追加した。また、論文1編を紀要に投稿した。
- ④学会発表2件(中国四国地理学歴史学協会、全国社会科教育学会)を行った。

## Ⅱ－3. 大学運営

### 1. 目標・計画

- ①科学研究費補助金をはじめとする外部資金の獲得
- ②兼業先における本学大学院のPR
- ③「教員養成モデルカリキュラムの発展的研究」への貢献

### 2. 点検・評価

- ①科学研究費補助金(基盤C:代表者)新規採択1件。その他, 科学研究費補助金(基盤B:分担者)継続2件。
- ②兼業先(甲南女子大学)において本学大学院のPRを行った。結果, 1名が臨床心理士養成コースに入学した。
- ③「教員養成モデルカリキュラムの発展的研究」の推進に尽力した。具体的には「教科内容学」研究協議会委員として, 小学校教科専門科目「社会」のテキスト作成を完了した。

## Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

### 1. 目標・計画

- ①附属中学校の研究大会への指導助言。(附属学校)
- ②徳島県小学校教育研究会社会部会・中学校教育研究会社会部会への協力。(社会連携)
- ③第5回中日教師教育学術研究集会プロシーディングへの投稿(国際交流)

### 2. 点検・評価

- ①附属中学校の研究大会への指導助言を実施した。
- ②第5回中日教師教育学術研究集会プロシーディングに投稿した。
- ③大韓民国の社会科教育学研究者との交流を深めた。具体的には, 韓国社会教科教育学会との研究交流に参加し, 且つ分担者を務める科学研究費補助金(基盤B)において, 市民性教育の成立史について, 韓国の研究者と共同研究を進めている。

### Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

- ①硬式野球部顧問としてインカレ徳島大会(オロナミンC球場)の開催に際して、学生や学生課による運営に協力し、大会を無事終えることができた。
- ②「教員養成モデルカリキュラムの発展的研究」における「教科内容学」研究協議会委員として、小学校教科専門科目テキスト「社会」を作成した。
- ③「専修免許状の実質化を図った修士課程教員養成カリキュラムの開発」平成25年度第2回研究会(平成25年12月21日)において、社会系コースにおける「教科内容構成」の展望について発表を行った。
- ④平成25年度「教員養成モデルカリキュラムの発展的研究」教科内容学に基づく小学校教科専門科目テキスト検討会(平成26年3月24日:パレスホテル)において発表した。
- ⑤『平成25年度「教員養成モデルカリキュラムの発展的研究」教員養成モデルカリキュラムの構成と実際ー特に小学校教科専門の実質化についてー』成果報告会(平成26年3月25日:文部科学省)において、メタ認識を原理とした社会科内容学のあり方と小学校教科専門科目テキスト「社会」の関連についてプレゼンテーションを行った。